



〒014-0054
大仙市大曲金谷町26-9
TEL: 0187-63-2257
FAX: 0187-62-3434
http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp



キャッチボール
～地域に開かれた農場を目指して～



農場長(佐々木 惇)より

収穫の秋

9月、1年生の「総合実習」において、野菜や果樹の農産物販売で連日生徒が校外に出かけて行きました。

9月13日、大農祭に向けて、早々と「豊作祈願」の稲のはさ掛けが校舎前に飾られました。

10月23日(日)の大農祭の一般公開では、生徒が育て加工した大農農産物を販売いたします。本校での農産物販売「大農新鮮 うめもん市」は9月30日で終了しましたが、今後は、地域での各種イベントへ出かけての販売が多くなりますので、お近くを訪れた際には、是非ともお手にとっていただければと思います。



水田部門



(担当: 藤井亨、高橋寿徳、佐々木尚人、黒田一久)

好天に恵まれ、ほぼ予定通りに稲刈りが終了し、出荷まで完了しました。これまで水田部門で実習に取り組んでくれた生徒の皆さんのおかげで今年も豊作となりました。ありがとうございました。

なお、来秋までに農舎が改築となるため、これまで数十年の歴史を刻んだ現農舎からの出荷は今年をもって最後となりました。



小家畜部門



(担当: 田口健一、佐藤晴輝)

「大農祭」や「大仙市総りフェア」で卵の販売を行いますので、是非足をお運びください。次の週には「農業科学館まつり」でも販売を行いますので、よろしくお願いします。いずれも数に限りがあり、売り切れごめんいたしますのでご了承ください。

中家畜部門



(担当: 高川健悟、佐藤潤之介)

ついこの間まで小さく可愛かった子豚もこんなに大きくなりました。12月の出荷予定に向けてこれからも一生懸命育てていきたいと思えます。また現在、課題研究において、畜舎のにおい環境改善のため、木炭を利用した研究を実施中です。



大家畜部門



(担当: 佐々木惇、佐藤晴輝)

9月12日、10月12日の両日に、飼料となる牧草の収納作業が行われました。これまで、国土交通省よりお借りしていた雄物川河川敷の採草地が利用できなくなり、購入した牧草です。3年生の畜産選択者が力を合わせて、畜舎の2階への収納作業は無事に終了しました。

花卉部門



(担当: 平塚祥広、山代和也)

秋田市雄和にある国際ダリア園の鷲澤さんから提供いただいたナマハゲダリアが開花しました。現在、5品種を試験栽培中です。秋田を代表するナマハゲダリア…大柄で優雅な姿は高級感が漂います。雄和の国際ダリア園では現在多くのダリアが開花中ですので時間のあるときはぜひ鑑賞してみてください。

「ナマハゲダリア」



果樹部門



(担当: 佐々木孝之、佐藤農)

現在の果樹園では「ふじ」の着色のために白色シートと玉回しと葉摘みを行っています。

大農祭ではブドウ(スチューベン・ラフランス)を販売予定です。スチューベンは樹上完熟中、ラフランスは予冷中です。



野菜部門



(担当: 古戸毅、和泉有紗、小林和成)



現在大農祭で販売予定のネギ(吉蔵・元蔵・白妙)とキャベツ(彩里・彩峰)の収穫を行っています。生徒たちはネギの香りに酔いしれながら、一所懸命そして丁寧に作業してくれています。心を込めて育てた野菜の味をぜひご賞味ください。

食品加工部門



(担当: 伊藤寿人、三嶋登忍)

パンの起源

パンの原料である小麦は、紀元前8000～7000年頃、西アジアで栽培されるようになりました。やがて、古代メソポタミアでは、小麦に水を加えて焼き上げた無発酵の平焼きからパンの製造が始まりました。その後、紀元前3000年頃のエジプトで、酵母の発酵作用を利用してふくらませる方法に変化したといわれています。日本へは、約450年前ポルトガル人によってパンが伝来しました。平焼きパンは現在も、インドのチャパティなどとして残っています。

大好評のリンゴジャムの製造が始まります

リンゴは酸濃度が0.2～0.4%、おもな有機酸の含量はリンゴ酸・クエン酸が70～95%と爽やかな甘さが特徴の果実です。大曲農業高等学校の「リンゴジャム」は厳選した果実と手間暇かけた製造方法で生徒に大人気商品となっています。

新商品開発に取り組んでいます

大仙市・美郷町特産のブルーベリーを使用した「ブルーベリー牛乳プリン」と「ブルーベリージュース」の商品開発に取り組んでいます。



生物工学部門



(担当: 大沼克彦、大坂淳、照井豊和、進藤純雄)



大農祭に向けて、生物工学科では課題研究の中間報告をまとめています。自分たちで目的を考え、計画を立てて、解決するために研究活動をしています。実験によっては、放課後まで残って実験しています。まだ中間報告の段階で、研究の進捗状況には差がありますが、彼らの頑張りを見てください。

また、生物工学科でも独自の展示を準備していますので、ご期待ください。